

1. 構造探査に基づく震源断層システムの解明

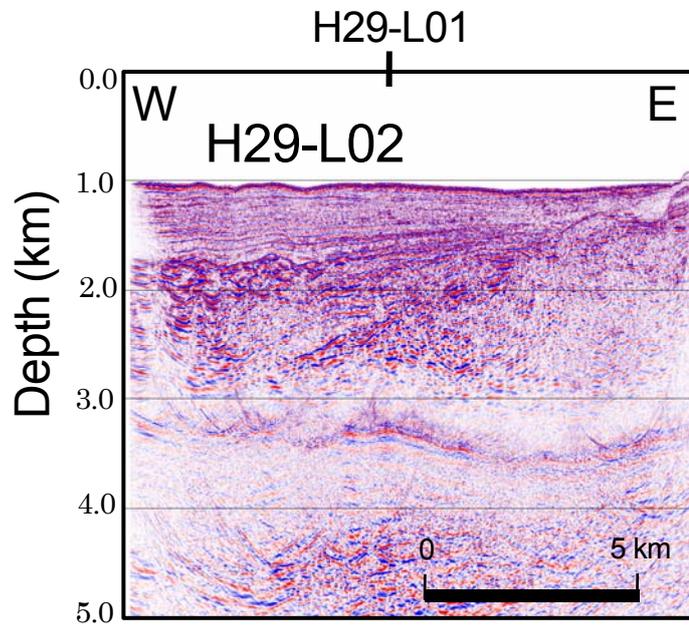
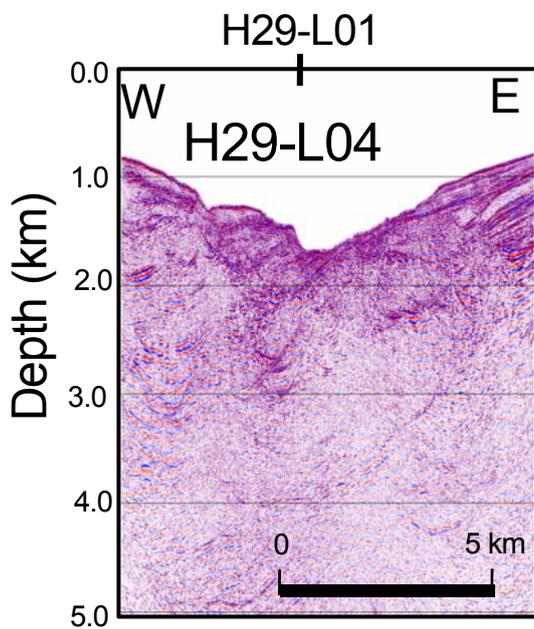
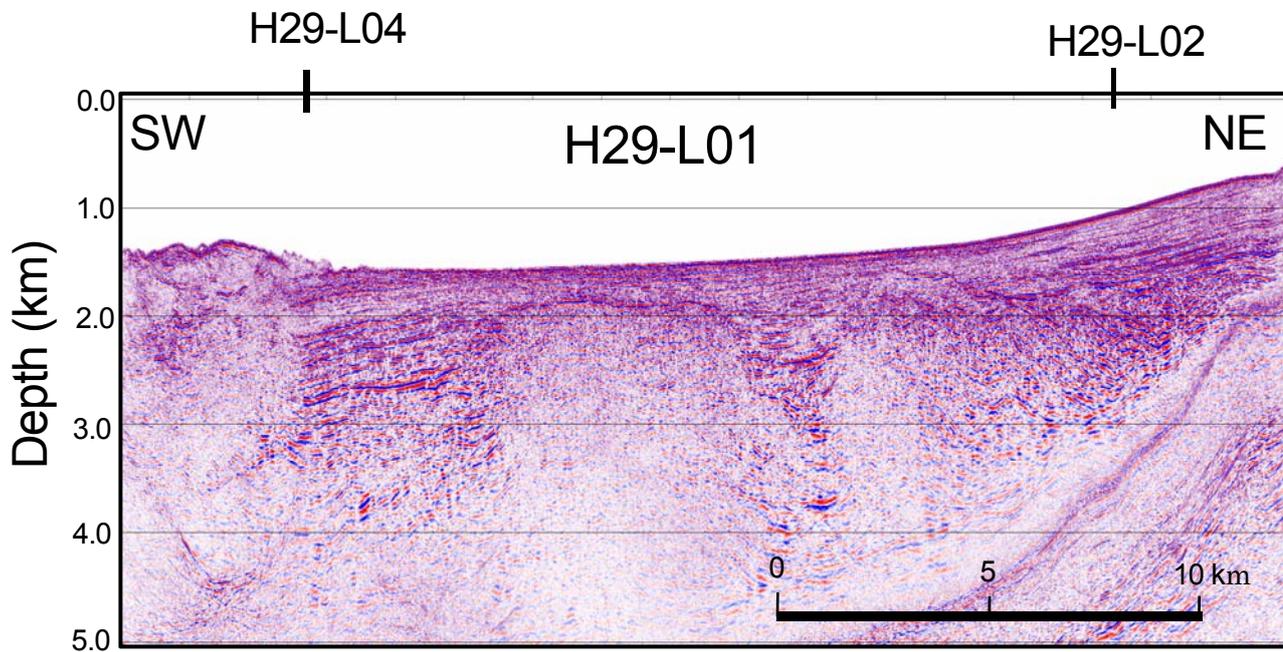


図 東京海洋大学が取得した既存データの反射法地震探査深度変換断面。
(上) 測線 H29-L01、(下左) 測線 H29-L04、(下右) 測線 H29-L02。

1. 構造探査に基づく震源断層システムの解明

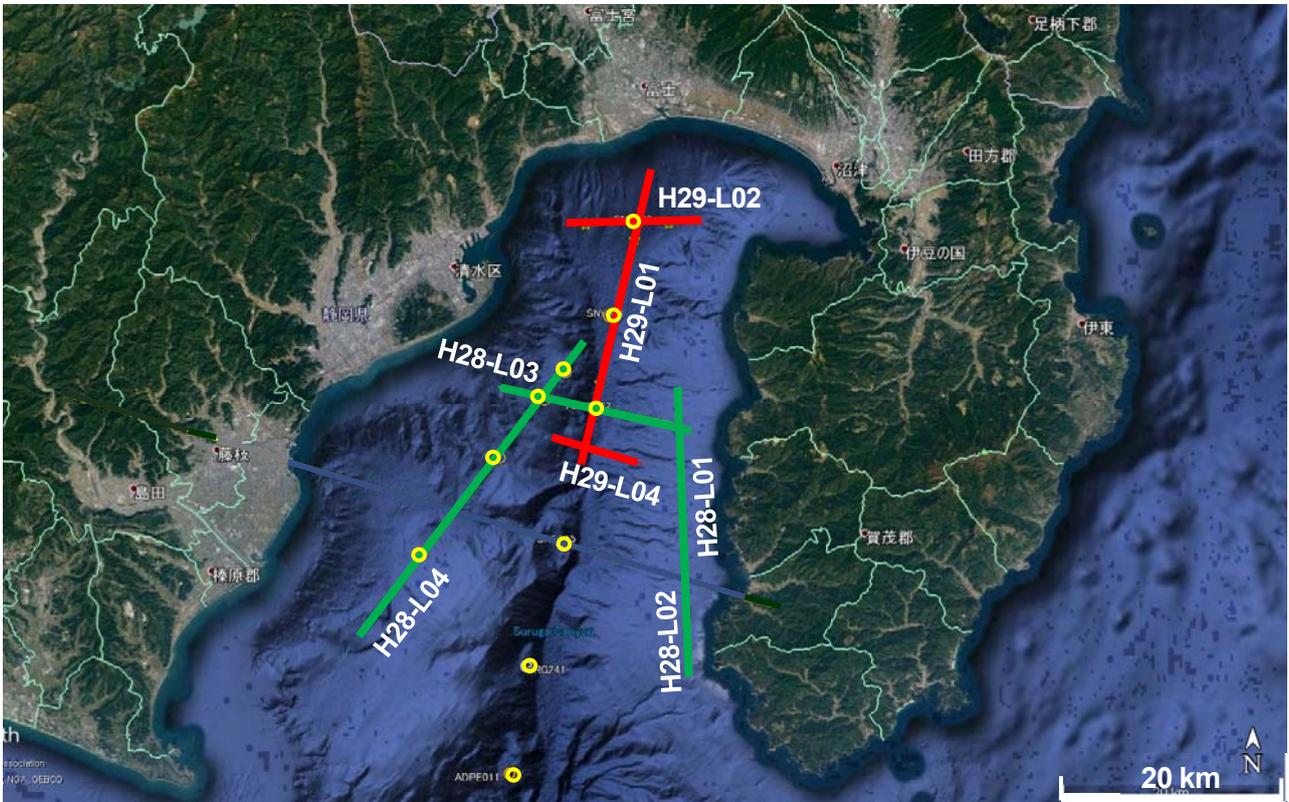


図 反射法データ統合処理。東京海洋大学「平成 28 年度・29 年度駿河湾における海域浅層 2 次元精密構造調査」による地震探査測線図（黄色の丸印●は、東海大学が設置した海底地震計）。

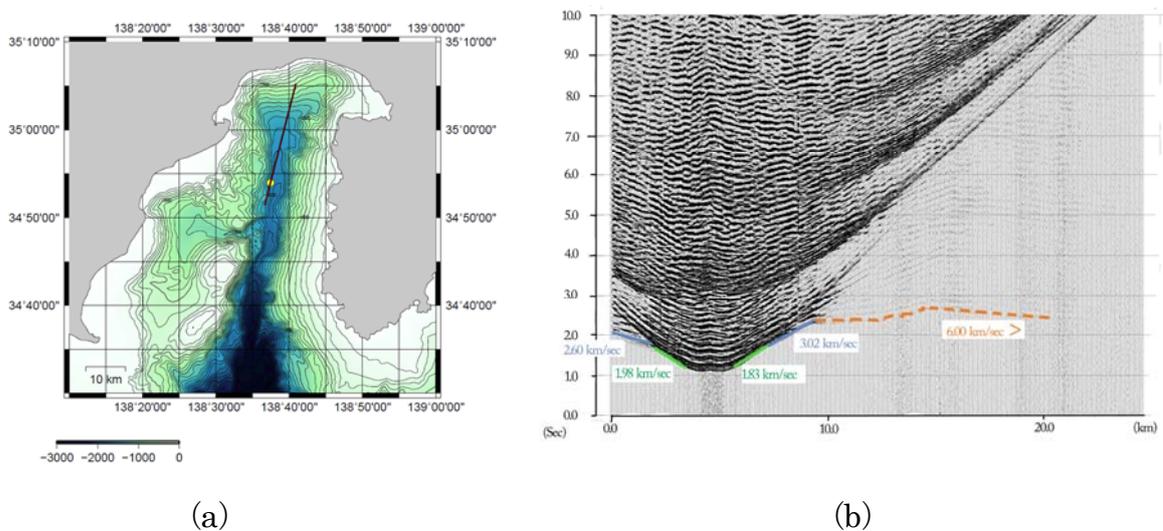


図 「平成 29 年度駿河湾における海域浅層 2 次元精密構造探査」における屈折法地震探査の記録例。(a)：駿河湾海底地形に測線位置（実線）および海底地震計位置（黄色丸●）を重ねた図。(b)：海底地震計●で得られたレコードセクション記録例。

1. 構造探査に基づく震源断層システムの解明

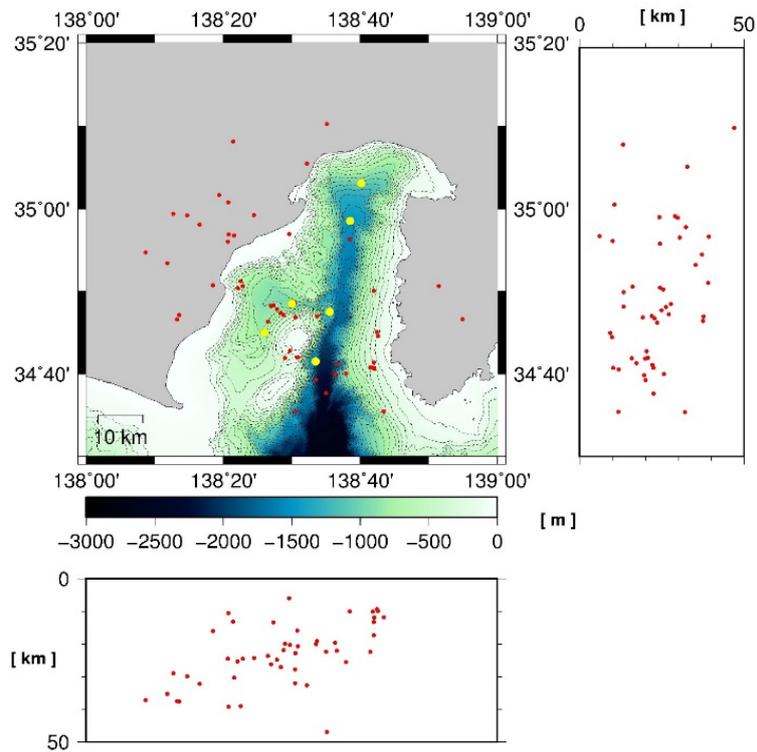


図 (上) 作業船「南十字 (20 トン)」の船上で投入準備中の自己浮上式海底地震計。
(下) 海底地震計観測点によって決められた震源分布図 (期間：平成 29 年 11 月～平成 30 年 01 月、●：海底地震計位置、●：震源位置)。

2. 活断層システムの分布・形状と活動性



図 反射法地震探査の測線図。赤線は活断層の位置（中田・今泉編, 2002）を示す。



図 C 測線での観測風景。（上）震源車 2 台による発振。（下）敷設された独立型地震波形収録器。

3. 地震活動から見たプレート構造

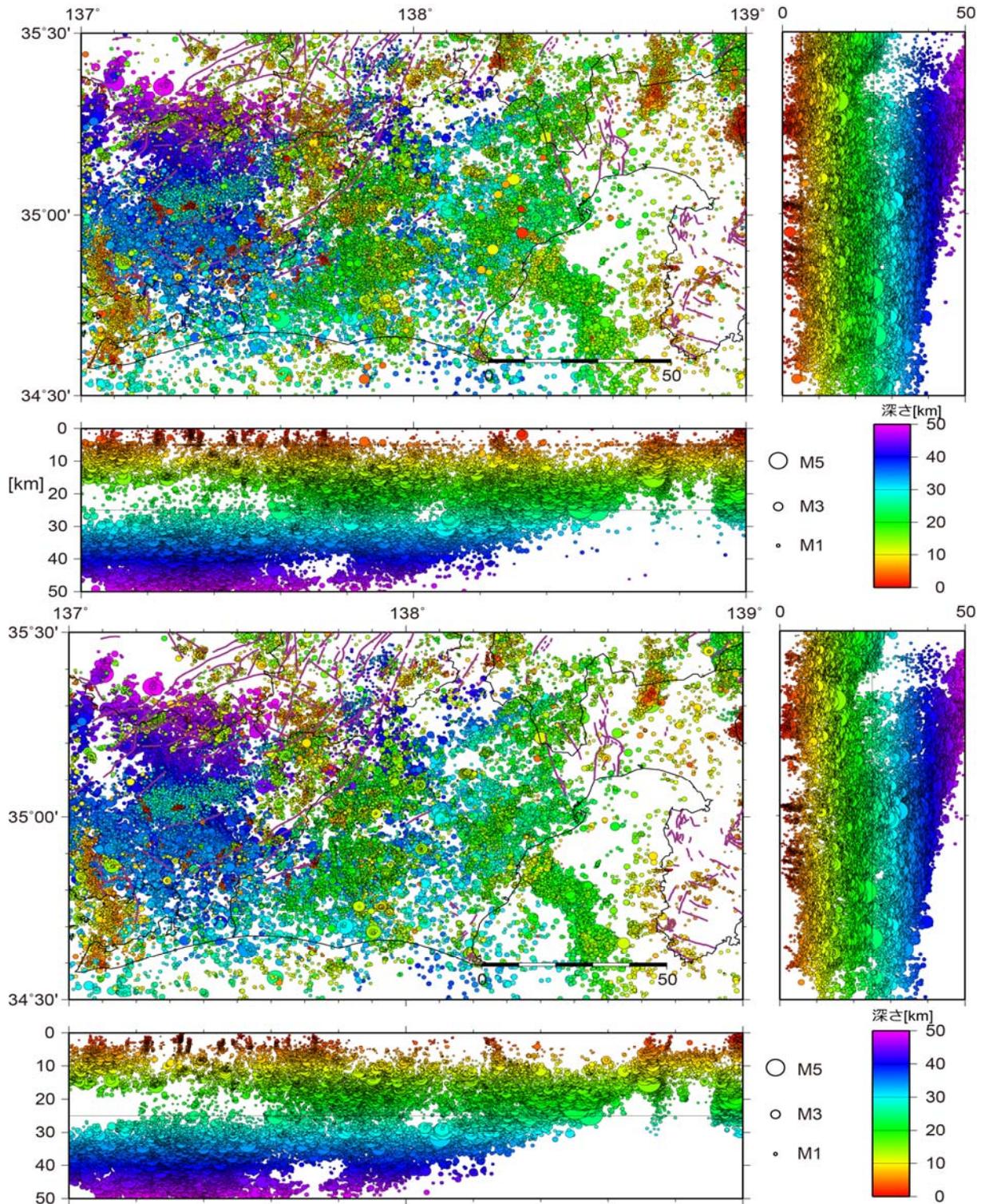


図 防災科研 Hi-net の自動決定を含む定常処理により決められた 2000 年 10 月～2017 年 12 月の M0.0 以上の震源分布 (上) と Double-Difference 法により再決定された震源分布 (下)。

3. 地震活動から見たプレート構造

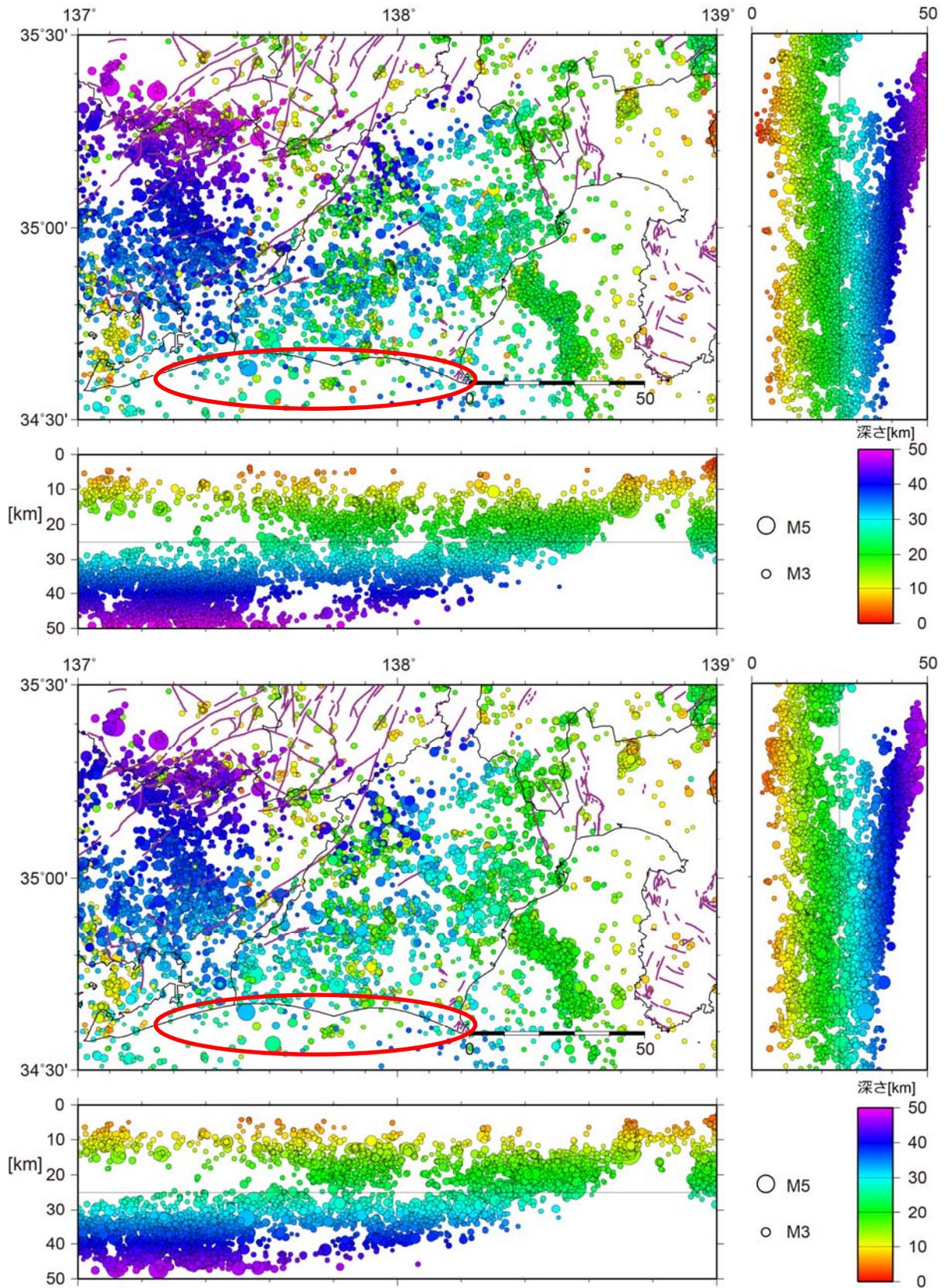


図 防災科研 Hi-net の定常処理により手動検出された 2000 年 10 月～2014 年 7 月までの M1.5 以上の震源分布（上）と三次元地震波速度構造を用いて再決定された震源分布（下）。赤楕円は再決定により陸に近づいた震源を示している。

4. 史料地震調査

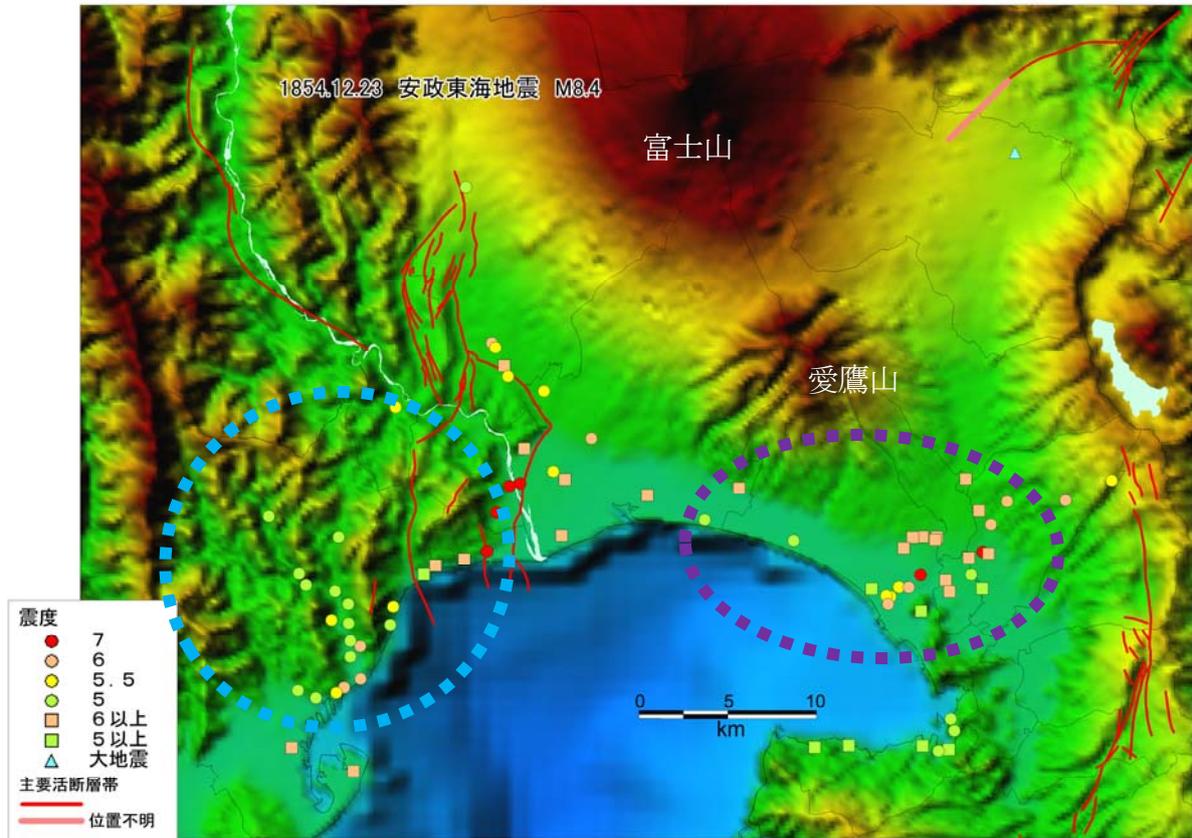


図 平成 29 年度に処理できた史料から推定された、安政東海地震の富士川河口断層帯周辺の震度分布。

まだ悉皆調査ではないので、各震度はより良い史料を重視して変化する可能性があるが、現時点でピンポイント判定できる地点を示してある。活断層は地震本部の評価トレース。

5. 強震動予測

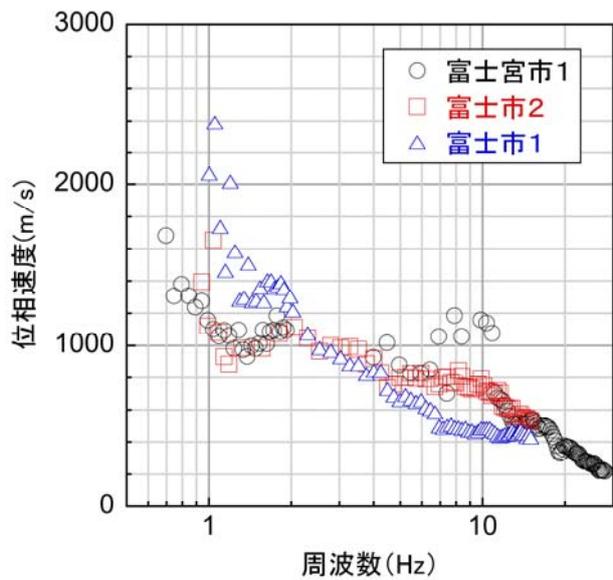


図 微動探査の結果。(上) 既往の微動探査および本研究で実施した微動探査の位置。(下) 本研究で得られたレイリー波の観測位相速度を示す。

6. 地域研究会



図 富士川河口断層帯地域研究会（静岡）準備会の開催。平成30年2月13日9団体39名出席。